

(1)「人を集める、交流する」事業

プラン名		プラン概要	平成28年	平成29年	平成30年
①	農業体験	久御山町農産物直売所がおこなっている農業体験を共催する。農業に興味のある近隣市町の住民をターゲットとし、久御山産野菜のPR効果も狙う。事業費は参加費を充当。 【担い手イメージ】 町・久御山町農産物直売所運営協議会	内容見直しや年間開催回数を増やし ながら事業を継続		
②	くみやま お茶と味わい体験	敷居が高いお茶事を一部真似て、久御山の味覚をお菓子やお茶まで含めた昼食で味わってもらいイベントを実施。旧山田家住宅で開催することで風流を演出すると同時に、プレミアム感を出す。 【担い手イメージ】 料理: JA女性部 材料: 旬菜の里 お茶: 柴田園 野点: 茶道サークル、久御山高校茶道部	道具類の購入 クロスピア でプレ実施	旧山田家住宅 で実施	軌道に乗 せ、年2回 の実施を目 指す
③	ものづくり探検	将来の人材確保を期待して、地元及び近隣市町の小中高校生・大学生に町内企業の工場見学等を促す。見学等に当たってはクロスピアを拠点とし、取り次ぎを受けるとともに、自社での見学等が不可の企業についてはクロスピアで展示しながら説明するなど。 【担い手イメージ】 町内企業	見学可能企 業の掘り起 しと一覧の 作成	夏休みをターゲットに各 学校等に広報	
④	久御山ビジネス 交流会	企業間で、町内にどのような企業があるか知らないことが多い。町内企業の交流機会を設け、ビジネスチャンスを広げる。 【担い手イメージ】 町・商工会・町内企業	産業振興計画と連携		
⑤	「歴史ツアー」	歴史街道推進協議会とのイベントを継続、及び新規イベントの考案。同協議会の広報力のもと、久御山への関心と参加者を集める効果を期待するとともに、ガイド養成の一貫とする。 【担い手イメージ】 町・歴史街道推進協議会	イベントの継続		
⑥	クロスピア市	身近なイベントとして、クロスピア市を継続する。平成27年度に、年間を通じておこなったことで徐々に来場者数が伸び、知名度が上がってきている。内容や広報方法等を都度改善のうえ継続し、交流人口の増加につなげる。 【担い手イメージ】 まちの駅クロスピアくみやま運営協議会	イベントの継続		

(1)「人を集める、交流する」事業

プラン名		プラン概要	平成28年	平成29年	平成30年
⑦	レンタサイクル	久御山町はコンパクトなまち、かつ平地であることから、自転車での移動に適していると言える。また、自分の都合の良い時・場所に移動できることから、交流人口の移動手段の確保としてレンタサイクルを導入する。 【担い手イメージ】 町・まちの駅クロスピアくみやま運営協議会	自転車の購入、駐輪場の整備、利用規約等の整備 供用開始	継続	
⑧	「流れ橋と茶畑」 景観のPR	これまで積極的にPRしてこなかった流れ橋であるが、多くの人が、「守りたい景色・風景」として魅力に感じている。これを受けて、地域住民のふるさと意識につなげるとともに、「お茶の京都」とも連携を図り、また、その広報力を利用することで積極的にPRしていく。 【担い手イメージ】 町	「浜台の茶園」AR、クロスピア・イオンシネマでのCM上映、写真のポスター等への積極的な使用		
⑨	お茶の京都拠点整備	まちの駅クロスピアくみやまが「お茶の京都」の拠点施設として機能するよう、ソフト・ハードともに機能強化する。	事業等検討・実施		
⑩	旧山田家住宅の 一般公開	時期・期間を定めて、旧山田家住宅の一般公開をおこなう。たとえば、春(桜の時期)と秋。併せて手作り市や音楽フェスティバルをおこなうことで、旧山田家住宅に興味のない層にも、存在を知ってもらうきっかけにする。社会教育課と連携。 【担い手イメージ】 町・地域住民	平成29年3月改修工事完了予定。公開時期や方法について検討。	組織づくり プレ実施	最少年2回の公開

(2)「魅力を学ぶ、伝える」事業

プラン名		プラン概要	平成28年	平成29年	平成30年
①	文化・歴史ガイドパンフレットの整備	ワークショップ形式で文化・歴史ガイドブックを作成する。参加者は公募し、久御山町の文化や歴史の勉強会やフィールドワークをしながら、理解を深めていく。ガイドブック完成後は、ボランティアガイドとして、文化・歴史勉強会の講師や「歴史ツアー」の説明員として活躍いただく。 【担い手イメージ】 町・久御山町郷土史会・地域住民	参加者公募	パンフレット完成	パンフレットの広報
②	文化・歴史勉強会		参加者公募の後、勉強会(テーマも自主性に任せる) 1回/月	勉強会の継続	ボランティアによる講師
③	ボランティアガイド養成		参加者公募 初回にセミナー		講師やガイド実施
④	「直売所」ガイド作成	町内各所にある直売所(有人)のガイドブックを作成し、久御山産野菜のPRに努める。 【担い手イメージ】 町・地域住民	ガイド作成	ガイドの広報	
⑤	ガイドマップ等の広報	「くみやま てくてくクロスマップ」やその他作成予定のパンフレットやガイドマップ等を、町やクロスピアのホームページにアップし、積極的にPRをおこなう。 【担い手イメージ】 町	広報活動		

(3)「『久御山』を発信する」事業

プラン名		プラン概要	平成28年	平成29年	平成30年
①	特産品の加工品開発	「久御山(町)」を冠する特産品(土産物)を開発するために、レシピを公募する。実際に加工する(調理する)団体が、それぞれ作ってみたいレシピを選び、プロの料理人の監修を入れて商品化する。 【担い手イメージ】 久御山町農産物直売所運営協議会、JA京都やましろ久御山町支店女性部加工部、あすなろグループ、クックピープル	担い手の研修会、レシピの公募、監修	試作品	商品化
②	キャラクターの積極的な活用	根強い人気を得ているゆるキャラを通じて、「久御山」の知名度を上げる。 【担い手イメージ】 町、商工会	既存キャラクターの位置付け整理	積極的なPR	
③	「お茶の京都」や「歴史街道推進協議会」、交通各社との広域連携	広域的な交流圏を利用し、久御山の知名度を上げるための広報活動に努める。各団体のイベント等でのガイドマップ配布や後援・協賛などをおこなう。	積極的なPR		

(4)お茶の京都推進に向けて、国・府等と連携が必要な事業

プラン名		プラン概要	平成28年	平成29年	平成30年
①	交番の早期新設	お茶の京都の推進により、今後、さらに多くの人の来町に加えて交通量の増加も予測されるため、事故や犯罪のない安全で安心な環境整備に向けて交番の早期新設を要望します。	要望・協議		→
②	東西軸道路の渋滞緩和	現在、本町の東西交通軸は府道宇治淀線、八幡宇治線に依存していますが、お茶の京都推進による今後のさらなる交通量増加が予測されることを鑑み、お茶の京都の拠点施設であるクロスピアくみやまから国道24号へのバイパス機能を備えた、仮称「東西道路」の新設検討を要望します。	要望・協議		→
③	公共交通の充実	鉄道駅のない本町では、お茶の京都の推進によって訪れる多数の人のためにも、路線バスの充実が必須です。現在、阪急西山天王山駅から京阪淀駅まで運行している路線バスを、お茶の京都の拠点施設であるクロスピアくみやままで延伸する新路線を、バス会社等関係機関に要望します。	要望・協議		→
④	お茶の京都 景観スポットの創設	木津川河川敷に位置する、日本遺産登録(予定)の浜台の茶園と流れ橋を一望できる木津川堤防は、お茶の京都のかおり回廊にも位置づけされており、ウォーキングや自転車でのアクセスもよく、絶景が展望できます。 国交省等河川管理者と協議を重ね、久御山町の新たな景観スポット創設に向けて、東屋等の設置を推進していきます。	要望・協議		→